

憧れと思いやりの気持ちを育む異年齢児交流について ～異年齢児活動の実践事例から考察する～

発表者：学校法人ひかり学園 美山こども園 美山幼稚園
池内 優香
水野 絢葉
上野 有希

1 はじめに

本園は日生ニュータウンのほぼ中央に位置し、四季の移り変わりを感じることで豊かな自然環境の中にある。

平成2年に設立、平成25年にこども園に移行し、今年で創立35年目を迎えた。「子どもの笑顔に出会えるこども園」を教育目標とし、日々の保育に取り組んでいる。

2 研究目的・テーマ設定の理由

本園は、各学年に教育カリキュラムが細かく設定されており、普段の生活の中で異年齢児が交流して活動する機会が少ない。さらに、新型コロナウイルスの流行によってこれまで行ってきた活動を一時中断することとなった。交流する機会が減ったことによって異年齢間の繋がりがより希薄になり、異年齢児との関わり方が分からない子どもや、関わり方がぎこちない子どもが多くなってきた。年下の友達のためを思って行動することが難しかったり、年上の友達の姿を見ても憧れる様子が見られなかったりする子どもの姿に課題を感じた。このことを受け、異年齢児間で交流することの大切さを再度認識した。

異年齢児交流を通して年上の友達に憧れの気持ちを抱き、年下の友達を思いやる気持ちをもって活動に取り組むことを目標に、本テーマを設定した。

【3歳児】

○研究目的

入園当初、園生活一つひとつの活動が初めてのため不安そうな表情を見せたり、泣いたりする姿が多く見られた。そこで、4歳児・5歳児と関わり遊んでいくうちに頼りになる人がいるという『安心感』をもてるようになってほしいと思い交流する機会を設けることにした。

また、交流を重ねていくことで、憧れの気持ちや思いやりの気持ちを育んでほしいと願い、本テーマを設定した。

(活動名) 親しみや憧れを感じられる異年齢児交流

～4・5歳児の優しさや頼もしさにふれる～

(ねらい) 異年齢児との交流を深め、興味関心をもつ

(領域) 人間関係・言葉・表現・健康

日付	活動	子どもの姿	保育者の配慮
4月	○5歳児に着替えを手伝ってもらう	・戸惑いを見せる子どもがいる。	・安心して過ごせるよう、一緒に取り組むようにする。
5月	○しゃぼん玉遊び	・直接的な関わりは少ないが、4歳児・5歳児の遊びを真似しようとする姿が見られる。	・4歳児・5歳児と関われるよう、声をかける。
6月	○4歳児と室内遊び 	・遊びに入れない子どもや、一人遊びをする子どもがいる。 ・仲が良い4歳児と遊ぶ。	・遊びに入れるよう声をかけたり、関わる機会を作ったりする。 ・遊びが発展するように遊びの見本を見せたり、一緒に遊んだりする。
7月	○5歳児と室内遊び	・遊びに誘ってもらい、一緒に遊ぶ。 ・5歳児ではなく、同じクラスの子と遊ぶ姿が見られる。	・子どもたちが遊んでいる様子を見守る。 ・5歳児とも関われるように声をかける。
9月	○ふれあい遊び (パフリングリレー) 	・ペアをつくる際に名前を呼び合う。 ・5歳児と手を繋いだり、関われることを喜んだりする姿がある。	・子どもたちでペアを決められるよう促す。 ・子どもの気持ちを代弁して5歳児に伝えたり、一緒に活動を楽しんだりする。
10月	○ミニミニ運動会 	・異年齢児を応援する姿が見られる。 ・初めての活動に戸惑い、参加できない子どもがいる。 ・5歳児に歩幅を合わせてもらい、参加する姿が見られる。	・異年齢児との関わり方を伝えたり、一緒に活動を楽しんだりする。 ・安心して参加できるように声をかけたり、見本を見せたりする。 ・子どもたちが取り組む姿を見守る。
11月	○公園探検	・急な坂道を4歳児・5歳児に手を引いてもらって歩く。	・急な坂道を歩けるように応援したり、頑張っていることを褒めたりする。
12月	○マラソン	・4歳児・5歳児の姿を見て、自分ももっと走ってみようと思う子どもがいる。	・子どもたちの頑張る姿を見守る。

○結果・考察

異年齢児交流という研究テーマを設定したことによって、4歳児・5歳児とたくさん交流することができた。交流を始めた当初は、年上の園児を怖がったり、関わることを嫌がったりする子どももいたが回数を重ねるうちに異年齢児と関わることに慣れ、戸外遊びなどで自然と関わろうとする姿も見られるようになった。また、手伝ってもらったり、手を引いてもらったりしたことで年上の園児に憧れの気持ちをもつ姿が見られ、“次は自分がお兄さん、お姉さんになる”という思いが芽生えてきたように思う。

○反省・今後の課題

ふれあい遊びの際には、子どもたちが自由にペアを作れるようにしていたが、毎回特定の子どもとペアを作る子どもがいた。仲の良い友達同士だったため、お互いが安心できる存在だったのかもしれないが、様々な子どもと関われる機会をもう少し設ければよかった。また、3歳児ということもあり、年上の園児との交流ばかりになってしまった。本園はこども園であるため、年下の園児との交流にも今後取り組んでいきたい。

【4歳児】

○研究目的

異年齢児交流は、社会性や協調性を育むうえで大切である。感染症や、核家族化、少子化の社会情勢の中で、地域での関わりが少なくなり、異年齢児と一緒に遊ぶ機会が減ってきている。園内で異年齢児との交流の機会を度々設けたが、関わり方にぎこちなさがみられた。日々の保育の中で、異年齢児との交流の機会を積極的に取り入れ、5歳児の姿に憧れの気持ちを抱いたり、友達を思いやったりする経験をし、社会性や協調性を育てて欲しいと願い、本テーマを設定した。

（活動名）社会性や協調性を育む異年齢児交流

～5歳児の姿に憧れ、友達を思いやる心を育てる～

（ねらい）友達や、異年齢児と親しみをもって関わり、相手を思いやる心を育てる

（領域）人間関係・言葉・表現・健康

日付	活動	子どもの姿	保育者の配慮
4月	○降園コースでの関わり ○戸外遊び ○歓迎会 	・以前から知っている異年齢の友達に声をかけ、一緒に遊ぶ。 ・園歌を歌い、歓迎の言葉を言う5歳児に興味をもって見る姿がある。	・子どもたちの関わって遊ぶ姿を見守り、遊び方に困っている姿があれば仲介する。 ・自分たちが5歳児になった時の活動に期待がもてるような声かけをする。
5月	○朝の集まり 	・ふれあい遊びを楽しむ姿が見られる。 ・異年齢児との交流に不安や緊張を感じ、参加しない子どもがいる。	・ふれあい遊びの見本を見せ、そばで一緒に行く。 ・様子を見守り、子どもたちが自発的に取り組めるような声かけをする。

	○しゃぼん玉遊び	・しゃぼん玉を上手に作る5歳児の姿を「すごい」と言いながら興味をもって観察する。	・不安を感じている子どもが、安心して活動できるよう、保育者と一緒に取り組む。 ・様子を見守りながら、活動を工夫して取り組めるような声かけを行う。
6月 7月	○3歳児、5歳児と室内遊び  ○ふれあい動物村 	・3歳児に対して絵本を読んだり、一緒に遊んだりして世話をすることに喜びを感じる。 ・5歳児に折り紙の折り方を教えてもらい、一緒に完成させることを楽しむ。 ・動物を抱いている友達に声をかけ、一緒に動物を触ることを楽しむ姿がある。	・異年齢の友達と一緒に活動できる時間を設定する。 ・遊びが発展するよう見守り、仲介する。 ・不安を感じている子どもが、安心して活動できるよう、保育者と一緒に取り組む。 ・友達の姿に自分から積極的に関われるような声かけを行う。
9月 10月	○ふれあい遊び (バフリングリレー) ○運動会の練習  ○ミニミニ運動会 	・3歳児に対して優しく手を引き、一緒に活動を楽しもうとする姿がある。 ・5歳児と協力して勝敗を意識して活動に取り組む様子がある。 ・他学年の運動会の練習に興味をもち、応援したり、歓声をあげたりして見学する姿がある。 ・他学年にかっこいい姿を見てもらいたいと、元気な声で掛け声を言ったり、大きく踊ったりする。 ・友達と一緒に体を動かすことを楽しむ姿がある。 ・他学年の競技に声援を送ったり、アドバイスをしたりしながら取り組む。	・年下の友達を思いやり活動できるよう声かけを行う。 ・見本を示し、勝敗を意識しながら活動に参加できるよう見守る。 ・見学する機会を設定し、来年度へ期待をもてるような声かけをしたり、3歳児から憧れの気持ちを抱いてもらえるような競技への取り組み方を伝えたりする。 ・楽しく取り組めるような声かけや環境設定を行う。 ・運動会で行った競技を取り入れ、行事の余韻を楽しみながら交流できるようにする。

11月	○公園探検（古宮公園） 	・自分から声をかけ、ペアを作る子どもがいる。 ・公園までの道中、会話を楽しむ様子がある。	・安全に探検できるよう声をかけ、様子を見守る。 ・季節の自然物に興味をもち、会話の話題になるように配慮する。
12月	○作品展	・他学年の作品展示を見て、興味をもったり、褒めたりする。 ・来年度の作品展に期待をもつ様子がある。	・来年度に期待をもち、5歳児に憧れの気持ちをもてるような声かけを行う。

○結果・考察

集会でのふれあい遊びや行事を通して、異年齢児と一緒に活動する楽しさを感じることができた。初めはぎこちなかった関わり方も回数を重ねる中で、異年齢児に対しての緊張や不安がなくなり、相手のことを考えながら適切な距離感や力加減が理解できるようになってきた。異年齢児交流の時間として設定した以外の戸外での自由遊びや預かり保育中の時間にも自ら関わり、一緒に活動を楽しむ様子が多く見られた。

○反省・今後の課題

異年齢児と交流する機会を意識的に多く設けたことで様々な関わりが見られた。一方で、安心できる固定の友達との関わりが多くなったり、異年齢児と交流が苦手な輪に入るまでに時間を必要としたりする子どもに対して、保育者が仲介する場面も多くあった。また、異年齢児交流の機会は設けられたが、各学年のカリキュラムの都合上、活動する時間は短時間が多かったため、深く関わり合う前に活動が終了してしまうこともあった。保育者自身が子どもたちの多様性を認め、年齢に応じた発達にとらわれず、一人ひとりの育ちを受け止めていく柔軟性が必要だと感じた。

【5歳児】

○研究目的

近年、新型コロナウイルスの蔓延により、ソーシャルディスタンスが謳われる中、子ども同士の交流も最小限に止めた保育を行ってきた。本園では、世間の情勢を踏まえ昨年度より他クラス・他学年との交流を再開し、ふれあい遊びや園外散歩等を通した異年齢児交流を保育に取り入れている。

これまで他クラスとの交流がほとんどなかった子どもたちにとって、昨年度の異年齢児交流の機会は、ドキドキするような目新しい活動という位置づけで、楽しむ姿があった。一方で、初めての環境に戸惑い、自ら遊びに誘うことが難しかったり、相手との距離が遠く遠慮がちに関わったりする姿が多く見られた。

今年度は、異年齢での活動をより積極的に取り入れ、様々な友達と遊ぶ楽しさを感じながら、5歳児としての立ち振る舞いや思いやりの心も育んでいきたいと考えた。

（活動名）思いやりの心を育む異年齢児交流

（ねらい）友達関係を広げ、刺激し合いながら、一緒に遊ぶ楽しさを味わったり、思いやりや譲り合いの心を育てたりする

（領域）人間関係・言葉・表現・健康

日付	活動	子どもの姿	保育者の配慮
4月	○新入園児歓迎会 ○3歳児の着替え、 降園時の手伝い	・3歳児を少し離れた場所から見て、交流を楽しみにする。 ・自分より幼い子どもたちに戸惑う姿がある。 ・保育者に関わり方を尋ねる。	・新入園児に興味をもち、交流に期待をもてるよう声をかける。 ・関わり方のヒントとなるよう、近くでやって見せる。
5月	○朝の集まりにてふれあい遊び	・4月に関わったクラスの子どもたちを気にかける姿がある。 ・普段から年下の子との関わりが多い子どもたちは、積極的に声をかける姿がある。	・消極的な子どもたちに対し、関わりがもてるよう声をかける。 ・関わることに慣れていない子どもたちが楽しめるよう、一緒にふれあい遊びをする。
6月 7月	○ふれあい動物村  ○4歳児との室内遊び ○3歳児との室内遊び 	・自ら動物を触りに行くことが難しい3歳児の姿を見て、触れ合い方を教える姿がある。 ・手を繋ぎ、年下の子を動物がいる場所に案内する姿がある。 ・始めは顔見知りの友達と遊ぶ姿が見られたが、玩具の遊び方を伝えたり、役割分担をそのままごとを楽しんだり、徐々に交友関係が広がっていく姿が見られる。	・動物による怪我やトラブルがないよう、近くで見守る。 ・輪に入ることができない子どもに気がつけるよう、声をかける。 ・異年齢ではなくクラスの友達と遊ぶ姿やぎこちない姿が見られたため、遊びの輪の中に入り、異年齢児と関わるができるような声かけをする。
9月	○朝の集まりにてふれあい遊び (パフリングリレー) 	・ペアになる際、受け身になる子どもがいる一方、組みたい相手に積極的に声をかける子どもも増える。 ・3歳児が動きやすいよう、手をつないでリードする姿がある。 ・4歳児に対しては、勝敗を意識しながら協力して走ろうとする。	・お互いに気持ちよくペアになれるよう、5歳児に対し3歳児の気持ちを伝える。 ・2人での走り方をやって見せる。 ・勝敗を意識できるような声かけをする。
10月	○運動会の応援 ○ミニミニ運動会 	・運動会の練習を見て、名前を呼んで応援する。 ・仲の良い異年齢の友達に声をかけ、ペアを組む姿が増える。 ・互いに応援し合い、気持ちを高める姿がある。	・他学年の様子を見る時間を設ける。 ・自分のことに集中し、異年齢児との関わりが少ない子どもに声をかける。 ・保育者も一緒に競技の応援をする。

		・顔見知りの友達が増え、異年齢間でも自然な距離感で活動を楽しむ。	・自発的に思いやりをもって関わる姿を認める声かけをする。
11月 12月	○公園探検 ○園外散歩  ○朝の集まり	・年下の子を気遣いながら、歩くペースを調整したり、壁の方に寄って歩けるようリードしたりする姿がある。 ・ふれあい遊びにて、年下の子に動きを教えて一緒に楽しむ姿が見られる。	・年下の子を気遣う姿勢を認め、褒める。 ・他学年の子に対し、列を意識して歩くサポートができるよう、5歳児に伝える。 ・リードして取り組めるよう、事前に5歳児に動きを伝えておく。

○結果・考察

年度初めは、他学年の友達との関わり方にぎこちなさがあったり、自ら声をかけることが難しかったりする姿があった。しかし、継続的に異年齢児交流の機会をもったことにより、年下の子を気遣ったり、リードして遊んだりする子どもたちが増えた。

○反省・今後の課題

積極的に他学年の子どもたちと関わる5歳児が増えたが、異年齢児交流に対して消極的な子どももいる。その姿を認めながら、集団生活の場として幅広い交友関係を築くことができるよう、今後もサポートしていきたい。

【個別の事例】

学年・名前	普段の姿	交流時の姿
3歳児・A	・活動に参加せず、寝転がったり、保育室から出て行ったりする。	・5歳児に手を引かれながら、活動に参加する。
3歳児・B	・友達を遊びに誘うことがなく、一人で遊ぶ。	・年上の友達に声をかけてもらい、一緒に遊ぶ。 ・年上の友達に遊び方を教えてもらい、様々な遊びをする。
4歳児・C	・友達が本児のやりたい遊びや活動に合わせてくれ、一緒に活動を行う。 ・慣れた友達以外との交流が苦手。	・交流会当初は輪に入れなかった。 ・回数を重ねる中で、年下の友達を作ることができ、一緒に活動する。
4歳児・D	・友達の世話をしたり、クラスを引っ張ったりする姿がある。 ・自分の意見より友達の意見を優先することが多く、譲ってしまうことが多い。	・年下の友達の世話を優しく嬉しそうに行う。 ・年上の友達に遊び方を教えてもらったり、甘えてみたりしながら、年上の友達と活動を楽しむ様子がある。
5歳児・E	・クラスの友達に自分の意見を伝えることが難しく、友達の後を追うようにして遊ぶ姿がある。	・3歳児・4歳児に自分の考えを伝えながら、ごっこ遊びの設定を共有して楽しんで遊ぶ。

5 歳児・F	・活動のペースに乗り遅れることが多く友達に気遣ってもらう立場にあることが多い。	・4 歳児を気遣いながら、同じペースで楽しく遊ぶ。
--------	---	---------------------------

○終わりに

本研究を通して3 学年で交流する機会を多く設けられた。はじめは異年齢の子どもと関わることに緊張や不安を感じている様子も多く見られたが、回数を重ねることで自ら関わろうとする姿が増えた。年下の友達に遊び方を教えたり、年上の友達の遊び方の真似をしたりする様子も見られ、相手を思いやる気持ちや、憧れの気持ちを育むことができた。

3 学期も生活発表会の劇遊びや卒園式の練習などを見学する機会を設け、異年齢の交流を続けていきたい。